

I 調査研究の概要

1 課題認識

- ・ 広島県の現状として教員の大量退職・大量採用が続いており、特に小学校教諭を大量採用しているため、経験の少ない若手教員の割合が増加していることから、指導力の向上を図る必要がある。平成 27 年 12 月 21 日中央教育審議会答申に示されているように、広島県においても教員養成に関する問題において、実践的指導力の基礎の育成に資するとともに、教職課程に在籍する学生に自らの教員としての適格性を考えさせるための機会として、学校現場を体験させる機会を充実させることが必要であると考え。
- ・ この学校現場での体験が、理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効であると考えますが、現段階で県教育委員会と大学とが一体となった教員養成の仕組みづくりは構築できていない。
- ・ 国の方針と広島県の現状と課題を鑑みた結果、広島県教育委員会として、とりわけ広島県内の小学校教諭一種免許状取得可能 10 大学（以下、「指定大学」¹⁾）と連携し、早期に教員志望の大学生の育成に着手する必要があると考える。
- ・ また、広島県内の小学校は 95%以上が中山間地域を有する市町に設置されている。そのため、中山間地域で教鞭をとる優秀な教員を確保することは、広島県教育委員会の重要な責務であると捉えている。

2 研究の目的

教員志望の学生の育成に関し、指定大学及び各市町教育委員会との連携を図って実施する 3 年間にわたるプログラムが、教職課程に在籍する学生に大学で学ぶ理論と学校現場における実践の往還によって、将来、教員に採用された際の円滑な入職に結び付く実践的指導力の基礎を身に付けることに有効であるかを検証する。また、中山間地域をはじめとした広島県の教育を担う人材の育成に資するプログラムであるかを検証する。

3 調査研究の成果目標

- ・ 大学新卒の新規採用者のうち本事業におけるプログラム修了者は、それ以外の大学新卒の新規採用者と比較すると、円滑な入職を果たし、指導力・使命感・意欲等が高い。
- ・ プログラム開始（入塾）時に比べ、プログラム修了（卒塾）時には、中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲が増している。

<指標>

①特別評価の換算点の平均点が、未修了者の平均点の 110%以上である。

⇒採用から 10 月経過後に行われる特別評価における換算点（180 点満点）について、修了者と未修了者との平均点を比較する。

②プログラム修了（卒塾）時における中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲の高さの平均値が、プログラム開始（入塾）時の平均値の 120%以上である。

⇒プログラム開始（入塾）時、修了（卒塾）時に、それぞれ同じアンケート²⁾による調査を行い、興味・関心、意欲の高さを 5 段階評価で点数化した合計点の平均点を比較する。

4 主な事業内容等

実施日	事業内容等
6月14日(木)～	募集要項公表, 携帯カード配付
6月25日(月)	各教育事務所(支所)及び関係市町教育委員会担当者説明会
8月26日(日)	説明会(西部会場及び東部会場の2会場)
9月3日(月)～7日(金)	入塾申込書受付期間
9月14日(金)	塾生決定通知書発送
10月14日(日)	【集合研修(I-①)1年次生対象】 ・中山間地域での教育に対する興味・関心, 意欲に関するアンケートを実施
11月4日(日)	【集合研修(I-②)1年次生対象】
12月9日(日)	【集合研修(II-①)2年次生対象】 ※当初9月に実施予定であったが, 台風による天候不良により12月に延期して実施。
2月5日(火)～2月14日(木)	指定10大学訪問
2月25日(月) ～3月14日(木)	【集合研修(I-③)1年次生対象】 《中山間地域の学校訪問》 【集合研修(II-②)1年次生対象】 《中山間地域の学校訪問》
2月18日(月)～3月1日(金)	実地研修校訪問

II 平成30年度広島県教師養成塾における事業内容の具体

研究目的を達成するために, 本事業では, 塾生が一堂に集まって実施する集合研修と塾生一人一人が各学校において実施する実地研修を相互に関連させ振り返ることができるように, 内容を関連させて実施した。

集合研修(I-①)では, 実地研修を実施する前段階として, 社会人としての基本的な礼儀, マナーや児童の発達段階に応じた対応の在り方を, 実地研修の留意点等をロールプレイを取り入れた講義やグループ協議形式で実施し, 実地研修の意義や目的についての理解を図った。

集合研修(I-②)では, 県立教育センターの指導主事や市教育委員会教育長を招聘し, 広島県の小学校教員の一日のスケジュールや仕事の魅力, やりがい等について, 具体的な講話・協議等を実施し, 実地研修でどのように学び, 何を習得し深めていくのかについて考えを広げる内容とした。

集合研修(I-③)は, 県内3つのブロックに分かれて, 実地研修校以外の山や海に囲まれた自然豊かな中山間地域の学校を訪問することで, 地域の特色ある教育活動を学べる内容とした。

実地研修は, 県内の17市町の小学校において, 児童とのふれあい活動, 授業観察やその補助, 学校行事の運営補助などの活動を行った。

集合研修(II-①)では, 県立教育センターの指導主事やPTA会長や市の教育委員の経験のある大学教員を招聘し, 授業づくりや地域と連携した学校教育の在り方等について, 講義や演習, グループ協議形式で実施し, 板書や発問の基本等の授業づくり, 地域に開かれた教育課程等について

の理解を図った。

集合研修(Ⅱ-②)では、県内3つのブロックに分かれて、実地研修校以外の山や海に囲まれた自然豊かな中山間地域の学校を訪問し、指導教諭の授業を参観することで、地域の特徴ある教育活動、優れた授業の在り方を学べる内容とした。

集合研修と実地研修の具体については、次のとおり。

1 集合研修

(1) 1年次生

日時・場所等	目的	内容
【Ⅰ-①】 平成30年10月14日(日) 10:00~16:00 広島県社会福祉会館	○実地研修を実施する前段階として、実地研修等の目的やマナー及び児童との接し方について学ぶ。	①入塾式 ②オリエンテーション ③実地研修及び学校インターンシップについて ④授業参観等の視点について ⑤児童の手本となるマナー講座 ⑥児童の発達段階に応じた対応 ⑦本日の振り返り及び諸連絡
【Ⅰ-②】 平成30年11月4日(日) 10:00~16:00 県立教育センター	○広島県教育施策を踏まえて、小学校教員がどのような思いをもって児童と学びあっているかを学んだり、小学校教員ならではの魅力を改めて実感したりする。	①オリエンテーション ②広島県の教員の日 (広島県教育施策を踏まえて) ③小学校教員の魅力とやりがい ④グループ協議 ⑤本日の振り返り及び諸連絡
【Ⅰ-③】 平成31年2月27日(金) 10:30~16:00 北広島町立八重小学校 平成31年3月12日(火) 10:30~16:00 大崎上島町立木江小学校 平成31年3月14日(木) 10:30~16:00 庄原市立東城小学校	○中山間地域の学校を訪問することを通して、地域の特徴を生かした学校教育についての見識を広げ深める。	①開会行事及び挨拶 ②研修校における教育概要及び取組について ③午後からの研修について ④児童との交流活動 ⑤清掃活動 ⑥授業参観 ⑦まとめ(授業参観を振り返って) ⑧閉会行事及び挨拶

《集合研修における参加状況(塾生名49)》

○ 集合研修Ⅰ-①(参加48名、親戚の不幸による欠席1名)

集合研修Ⅰ-②(参加43名、体調不良等による欠席6名)

集合研修Ⅰ-③(参加45名、体調不良による欠席4名)

(2) 2年次生

日時・場所等	目的	内容
<p>【Ⅱ－①】 平成30年12月9日(日) 10:00～16:00 広島県社会福祉会館</p>	<p>○授業づくりや地域と連携した学校教育の在り方等についての理解を深める。</p>	<p>①オリエンテーション ②授業づくり ・学習指導案作成の基礎 ・発問、ノート指導、板書等 ③保護者からのメッセージ～期待に応え信頼される教員とは～ ④実地研修に向けて ⑤本日の振り返り及び諸連絡</p>
<p>【Ⅱ－②】 平成31年2月27日(水) 10:30～16:00 三次市立十日市小学校 平成31年3月6日(水) 10:30～16:00 江田島市立江田島小学校 平成31年3月8日(金) 10:30～16:00 廿日市市立平良小学校</p>	<p>○中山間地域の学校を訪問し、優れた授業を参観すること等を通して、地域の特色を生かした学校教育についての見識を広げ深める。</p>	<p>①開会行事及び挨拶 ②研修校における教育概要及び取組について ③午後からの研修について ④児童との交流活動 ⑤清掃活動 ⑥授業参観 ⑦まとめ(授業参観を振り返って) ⑧閉会行事及び挨拶</p>

《集合研修における参加状況(塾生65名)》

○ 集合研修Ⅱ－①(参加57名, 体調不良等による欠席8名)

※台風接近により日程変更

集合研修Ⅱ－②(参加61名, 体調不良による欠席4名)

《今後のスケジュール(平成31年度以降)》

- 大学3年次では、主体的な学びの充実に向け、広島版「学びの変革」アクション・プラン⁴を理解し、授業づくりについて学ぶとともに、塾生による模擬授業等を実施し、基礎的な授業力の向上を図る計画をしている。また、常にグループ協議等を設定し、他大学の大学生との交流の機会を設けて視野を広げるとともに、共に広島県の教師を目指す仲間づくりを行う。
- 学年に応じた集合研修を考えているため、年次によって研修回数を変える計画である。
 - ・大学1年次：3回(入塾式を含む)
 - ・大学2年次：2回
 - ・大学3年次：6回(卒塾式を含む)

2 実地研修

- 塾生の希望に応じ、広島市を除く県内22市町のうち、20市町教育委員会が所管する小学校で実施した。児童とのふれあい、授業観察及びその補助等を通して、児童の変容・成長を肌で感じ見取ることができるよう、本研修は約2年間という長期間、同一校で実地研修を行うこととした。

市町別実地研修校数及び研修生配置数

市町名	研修校数		研修生数		市町名	研修校数		研修生数	
	2年次生	1年次生	2年次生	1年次生		2年次生	1年次生	2年次生	1年次生
福山市	11	7	18	9	安芸高田市	1	1	1	3
呉市	4	4	4	4	北広島町	0	1	0	1
大竹市	1	1	1	1	三原市	1	2	1	2
東広島市	7	3	12	3	尾道市	3	1	4	1
廿日市市	8	8	9	10	府中市	1	2	1	3
江田島市	1	2	1	2	世羅町	1	0	1	0
府中町	0	1	0	1	神石高原町	1	1	1	1
海田町	4	2	5	2	三次市	1	1	1	1
熊野町	1	3	1	3	庄原市	2	0	2	0
坂町	2	1	2	1					
竹原市	0	1	0	1					

○ 実地研修の受入校が塾生に対し効果的な研修を実施するために、広島市を除く22市町教育委員会や各教育事務所等に本事業の担当者を位置付け、一同に介して、実地研修受入校に配付する資料をもとに説明会を実施し、本事業の目的を共有し方向性を揃えた。



○ 1年次塾生49名中、48名が研修時間数（20時間以上）の研修を終えることができた（1名について代替研修を実施）。2年次生65名は全員が研修時間数（40時間以上）の研修を終えることができた。

3 各研修の成果（○）と課題（●）

事業は、3年間にわたるプログラムを通じた調査研究のため、以下今年度（平成30年度）の成果及び課題を報告する。

【集合研修】

- 民間、県立教育センターの指導主事及び府中市教育委員会教育長、大学教員を講師に招聘するなど、高い専門性をもつ多様な人材を活用することを通して、発達段階に応じた児童との接し方や広島県の小学校教員に求められる資質能力等について深く学ぶことができた。
- 指定大学の担当者にも研修への参加を促し、塾生の様子等の観察を通して、本教師塾で何を学んでいるのかを理解していただくことができた。
- 塾生の様子や協議における発言内容、集合研修の内容を踏まえた指定大学の教員の感想、意見等から、次年度（平成31年度）以降の大学2年次、3年次における研修計画・内容を変更した。塾生の実態、大学の講義とのリンクを図った研修内容に変更することができた。

- 集合研修Ⅰ－③は、3つのグループに分けて、山や海に囲まれた自然豊かな中山間地域の小学校で実施した。校長講話では地域を教材としたり、地域と連携したりした教育活動の紹介があり、中山間地域の小学校ならではの、地域の特色を生かした教育活動について学ばせることができた。また、授業以外の場面でも児童とふれ合うことで教職の魅力について実感させることができた。



- 集合研修Ⅱ－②は、3つのグループに分けて、山や海に囲まれた自然豊かな中山間地域の小学校で実施した。集合研修Ⅱ－①で授業づくり、地域と連携した教育活動について学んだ上で作成した「授業の工夫」「地域の魅力」についてのレポートを持参させた。レポート作成を通して、授業づくりや地域の特色を生かした教育活動について自分なりの考えをもった上で、指導教諭の授業を参観し、他の塾生と交流したため、協議に具体性と深まりが見られた。3年次に向けてさらに学んでいく意識も高まった。



- 同じ目標や志をもった他大学の学生との交流する時間を設定したことで、改めて小学校教員になりたいという思いを強くしたり、他者の考えに触れることで新たな視点を得たり、考えを深めたりすることにつながっている。塾生が所属大学において他大学の塾生の言動に刺激を受けているという



- 大学内において教師養成塾で学んだことを還元・普及するために発表する場がない大学もある。大学に、塾生の理解を深める機会としての意義、塾生以外の学生の意識を向上させる機会としての意義について理解を促し、発表する場を多く設定していただく。また、塾生の発表内容についても、要望があれば教育委員会として指導を行う仕組みを構築する。

- 来年度（平成31年度）は、年間で合計6回の集合研修を計画している。塾生の実態を指定大学と連携しながら的確に把握し、研修内容を系統的・段階的につなげるとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら教員としての資質能力の育成を図ることが出来る研修内容へと工夫を図っていく。

【実地研修】

- 塾生を受け入れて下さっている市町教育委員会や受入校の管理職等から、塾生の様子や研修内容等について聴取することを通して、次年度（平成31年度）に向けた改善等を行うことができた。

- 実地研修を受け入れていただいている小学校からは「担当教諭が教職の素晴らしさを伝えたいという前向きな気持ちから仕事への意欲が高まった。担当する教室の雰囲気明るくなった。」「子供と触れ合ってくれるということで、児童が身近な大人に接する喜びを感じている。」など、塾生の成長だけでなく、学校にとってもメリットがあるという高評価を得ることができた。また、礼儀・マナー、服装、言葉遣いといった接遇についても時間、場所、機会等に応じた言動をすることができ、児童の手本となっているなど評価を得ている。

- 塾生自身が自らの適性を考える研修の場となっている。
 - ・児童に確かな学力を身に付けさせるための準備（教材研究等）や児童一人一人に寄り添った声掛けや丁寧な対応を観察したりする中で、自分は教員には適していないと考え、大学に相談した上で、退塾し、新たな進路に向けて取り組みを始めた学生がいた。
 - ・上記の大学では、概ね教育実習前（大学3年次）において、学生や保護者と今後どのような方向で進路・就職を見据えるか、といった面談を実施しているが、今回の件を受けて、大学1年次から保護者を巻き込んで丁寧に指導できたこと、将来について思いを話し合えたことはとても良い機会となった、との回答があった。

- 塾生には児童の変容や成長を実感してもらうため、原則2年間同一校で研修を実施している。しかしながら、調査研究の目的の一つでもある、広島県の中山間地域をはじめとした広島県の教育を担う人材を育成していくために、地域を学習内容とした体験活動等に積極的に参加させる。

- 募集人数の制限はあるが、可能な限り多くの学生に入塾してもらうため、平成31年度の説明会において、平成30年度の1年次、2年次の塾生に参加してもらい、本事業に参加して自分の成長につながったことや強く心に残ったこと、後輩にアピールしたい本事業の魅力、広島県の中山間地域をはじめとした広島県の教育などを内容としたプレゼンテーションを行う。

- 来年度以降の本事業の改善に向けた参考とするため、実地研修を受け入れていただいている小学校から、運営上の課題や塾生に期待すること等を挙げていただいた。

《運営上》

- ・実地研修受入校に配付する資料において、大学1年次は参観中心となっているが、塾生の状況に応じて学習指導の補助等をさせてもよいこと、大学2年次は体験活動等に積極的に参加することを明記すること。
- ・研修前の塾生の情報共有（申込書及び計画書の例示等）

《塾生に期待すること》

- ・人間関係づくり、コミュニケーションスキル及び自己表現力の向上
- ・スケジュール管理能力

Ⅲ アンケート調査

○ アンケート作成の意図

- ・ 広島県の中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲等が、大学1年次と大学3年次とを比較し、集合研修や実地研修等を通じて、どのように変化していくのかが分かるよう、行動面と教育内容の理解の2つの側面から調査できるアンケートとなるよう作成した。
- ・ また、選択する質問のみならず、思いがどのように変化していくのかが分かるよう記述する欄を設けた。

○ 平成30年度広島県教師養成塾入塾生49名に対し、集合研修Ⅰ-①において、中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲に関するアンケート調査を実施した。以下に5段階で評価した集計表を示す。

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
塾生(人)	0	0	2	10	37

- #### ○ 将来、広島県内の教員として、どのようなことを取り組んでいきたいか、という問いに対し、塾生の多くが、「地域や学校を知り好きになり一人一人の児童と心でつながれるような教員になれるよう児童に寄り添い話を聴きたい」「児童一人一人が学ぶことの楽しさや面白さを感じていけるような授業をしたり、児童同士で学びを深めていけるような環境(クラス)作りをしていきたい。」など意欲的な記述をしている。しかしながら、広島県の小学校の特色ある教育活動について具体的に、その意義も踏まえて理解している塾生は一人もいない。以上のことから、大学1年次(入塾前段階)において、小学校の教員になりたい意欲はあるものの、そのために大学においてどのような学びをしていきたいといった具体や広島県内にある様々な地域(山間・島嶼部等)の特色ある教育活動に対する知識は少ないといえる。

Ⅳ まとめ

1 教員を志す学生の育成における県全体の機運の高まり

- ・ 実地研修の受入校が塾生に対し効果的な研修を実施するために、広島市を除く22市町教育委員会や各教育事務所等に本事業の担当者を位置付け、一同に介しての説明会を実施し、本事業の目的を共有し方向性を揃えた。このことにより、県教育委員会と関係教育機関との連携が深まり、県全体として学生を育てていくという機運が高まった。

2 塾生及び指定大学における意識の変容

- ・ 集合研修において有識者、県立教育センターの指導主事及び府中市教育委員会教育長を講師に招聘するなど、高い専門性をもつ多様な人材を活用することにより、塾生は教職に関するイメージがより明確になった。
- ・ 指定大学担当者を集合研修に招き、塾生の様子や本教師塾で何を学んでいるのかを理解し、大学における指導の参考となる機会を設けた。
- ・ 塾生は「何を学び、今後大学でどのように学びを深める必要があるか」などについて、今後、大学内で還元・普及することとしており、指定大学にも連携・協力を要請する予定である。

- ・ 指定大学からは、児童の手本となるマナー講座等，教職のみならず社会人としての基礎力を身に付ける内容を早い段階から実施していただき大変有意義な研修である，との声を聞いている。

3 本事業のプログラム改善に向けた取組

- ・ 入塾時と卒塾時の塾生の変容等を検証するためのアンケートの入塾時の回答や塾生の意欲的な様子を踏まえ，次年度（平成 31 年度）大学 1 年次，大学 2 年次における研修計画・内容を塾生の実態に応じた研修内容に修正した。
- ・ 各市町教育委員会と連携し，県教育委員会担当者が実地研修校を訪問し，塾生の様子や受入校の思い等を聴取することを通して，次年度（平成 31 年度）に向けた改善を図ることができ，塾生が実地研修で児童と交流することを通して，学校に活気がもたらされ，学校と塾生の双方にとって意義深い研修となっているといった声を多数聞くことができたている。

注釈

1) 指定大学

広島県内の小学校教諭一種免許状取得可能な以下の10大学を示している。

- ・比治山大学，広島修道大学，広島女学院大学，広島大学，広島都市学園大学，広島文化学園大学，広島文教女子大学(平成31年度より「広島文教大学」)，福山市立大学，福山平成大学，安田女子大学

2) アンケート

集合研修Ⅰ－①において，研修生67名に対し，中山間地域での教育に対する興味・関心，意欲に関するアンケートを実施した。以下アンケートの内容を示す。

【回答欄】

- 1 広島県内（広島市を除く。以下，同じ。）の小学校のホームページを閲覧したことがありますか。

ある	ない
(どちらかに○)	

1で「ある」と回答した方は2，3に回答してください。1で「ない」と回答した方は4へ進んでください。

- 2 何校程度閲覧したことがありますか。

校程度

- 3 ホームページを閲覧しようと思ったきっかけは何ですか。また，閲覧した学校の教育活動の目的や内容を知ってどのような考えを持ちましたか。(自由記述)

--

- 4 広島県内の小学校における特色ある教育活動を知っていますか。

はい	いいえ
(どちらかに○)	

4で「はい」と回答した方は5に回答してください。4で「いいえ」と回答した方は6へ進んでください。

- 5 あなたが知っている特色ある教育活動は何ですか。また，そのような教育活動を知ってどのような考えを持ちましたか。(自由記述)

--

- 6 広島県内の小学校（出身小学校に立ち寄った場合（恩師に会いに行くなど）や実地研修で訪問した場合を除く。）に，何か目的をもって訪問したことはありますか。

ある	ない
(どちらかに○)	

6で「ある」と回答した方は7に回答してください。6で「ない」と回答した方は8へ進んでください。

- 7 訪問した目的は何ですか。また，訪問してどのような考えを持ちましたか。(自由記述)

--

- 8 将来，広島県内の教員として，どのようなことを取り組んでいきたいですか。(自由記述)

--

アンケートによる5段階評価の方法

中山間地域での教育に対する興味・関心・意欲を、行動面における因子と教育内容等の理解における因子により、次の5段階で評価する。

2択式 記述式	3項目が 「ある」又は「はい」	2項目が 「ある」又は「はい」	1項目が 「ある」又は「はい」	3項目が 「ない」又は「いいえ」
11点～12点	5	—	—	—
9点～10点	4	4	—	—
6点～8点		3	3	—
4点～5点	3	2	2	—
3点以下	2		1	1

記述式項目における評価規準

項目3

評価	換算点	規 準
A	3	学校の様子に関することや、学校の教育活動に係る記述が単に感想だけでなく、内容の考察や内容に対する自分の意見も見られる。
B	2	学校の様子に関する記述に加え、学校の教育活動に係る記述もある。
C	1	学校の様子に関する記述が中心で、学校の教育活動にまで触れていない。

項目5

評価	換算点	規 準
A	3	知っている教育活動について、それぞれの教育活動の意義を踏まえた記述に加え、内容の考察や内容に対する自分の意見も見られる。
B	2	教育活動について、それぞれの教育活動の意義を踏まえた記述がある。
C	1	教育活動の羅列に留まっている。

項目7

評価	換算点	規 準
A	3	目的意識をもった訪問となっており、得たものについての具体的な記述があることに加え、訪問校の課題や、自分の意見も見られる。
B	2	目的意識をもった訪問となっており、得たものについての具体的な記述がある。
C	1	知見を広げるための見学程度の訪問に留まっており、感想程度である。

項目8

評価	換算点	規 準
A	3	やりたいことについて、県教委の取組や、学校の所在する地域の特色を踏まえた上で、その目的や方法までの記述がある。
B	2	やりたいことについて、その目的や方法までの記述がある。
C	1	やりたいことの羅列に留まっている。

4) 広島版「学びの変革」アクション・プラン

広島県教育委員会では、学習者を基点とする能動的で深い学びである「主体的な学び」を促す教育活動を推進するため、平成26年12月に「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、先進的に取組を進める学校を指定して研究を重ねている。

詳細はこちら⇒ <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/global-manabinohenkaku-actionplan/>